

<金標準、ピークアウトの予兆で5月15日の安値 14758 円へ・・・>



(出所：オアシス)

米国のイラン核施設へのバンカーバスタの攻撃を受け、イスラエルとイランが事実上の停戦を発表し、中東における地政学的なリスクが後退している。ただイランの最高指導者であるホメイニ氏が勝利宣言を行ったことからトランプ大統領は態度を一転し、再攻撃を示唆し、経済制裁の解除も否定する発言を行ったが、数時間後にはイランが「平和的になれるのであれば」、最終的に制裁解除を支持する可能性を示唆している。米国がイランの核施設を攻撃した後、脅しと外交の可能性を同時に打ち出した格好を見せている。特に今週に米国はイランとの協議を控えており、協議が進展し経済制裁が解除される様であれば、イランの原油生産が原油価格を押し下げ、インフレが後退する状況になれば、金価格に対する妙味は低下し、FRBの利下げ実施までは下値を模索する展開が続く可能性は高まると思われる。そのため金標準先物は、目先の下値目標である5月15日の安値 14758 円に近づく下値模索の展開が続く可能性が強まると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルも下げている。RCIは短期が下げながら、長期が下げだしている。特に日足が10日移動平均線、40日移動平均線も下回ったことから基調は下向きへ移行しており、戻り売りの値動きに思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,790,000 円(2025 年 6 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2025 年 6 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>